

平成 29 年度研究成果に関する外部有識者意見聴取の結果について

平成 30 年（2018 年）3 月 26 日

山口県農林総合技術センター

1 目的

研究成果の公表にあたり、現場での活用可能性、新規性、フォローアップや確認試験の必要性について外部有識者から幅広い視点や専門的な観点から意見を聴き、意見を踏まえた対応方向等今後の研究開発に活かす。

2 対象課題

平成 29 年度にセンター内部の完了評価を受けた単県研究課題

3 外部有識者の選定

1 課題 4 名の外部有識者を次の①～④の区分から 1 名ずつ選定し、別添の調査票により平成 30 年 1 月から 2 月にかけて意見を聴取した。

①学識経験者（国立大学法人山口大学）

②他の研究機関（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構西日本農業研究センター）

③農業関係団体（全国農業協同組合連合会山口県本部、公益社団法人山口県畜産振興協会）

④消費者（山口県地域消費者団体連絡協議会）

4 結果

No.	課題名	総合評価※2	評価内訳※1（人）		
			A	B	C
H28-01	需要に応じた麦生産技術の確立	十分な成果が得られた	4	0	0
H28-02	緑のカーテン等による暑熱対策を導入した畑ワサビの超促成栽培技術の開発	十分な成果が得られた	3	1	0
H28-03	イチゴの長期どりに対応した春期（2～6月）の害虫防除技術体系の確立	一定の成果が得られた	1	3	0
H28-04	「せとみ」における貯蔵病害防除技術の確立	十分な成果が得られた	3	1	0
H29-01	白おぐらのブランピング冷凍貯蔵技術の確立	十分な成果が得られた	4	0	0
H29-02	本県に適した飼料用米・飼料用イネ品種の省力・低コスト・多収栽培法の確立	十分な成果が得られた	4	0	0
H29-03	黒毛和種繁殖雌牛の改良に関する研究	十分な成果が得られた	3	1	0
H29-04	山口型放牧の更なる省力管理技術の確立	一定の成果が得られた	1	3	0
H29-05	酒粕を活用した肉豚肥育技術	十分な成果が得られた	3	1	0

※1 評価基準 A：山口県の生産・流通・加工等の生産現場で活用可能性が高い。
B：生産現場での確認等の普及支援を行うことにより現場で活用が可能
C：追試や確認試験が不可欠、現場で活用可能性が低い。

※2 総合評価 Aが過半数の場合：十分な成果が得られた。
AとBを合計が過半数：一定の成果が得られた。
上記以外：成果が得られなかった。

※3 その他寄せられた主な意見等は別紙参照

5 その他

当センターホームページを通じて平成 30 年 1 月 22 日から平成 30 年 2 月 15 日までの間、一般県民から対象課題に関する意見募集を実施した。寄せられた意見は 0 件であった。

(別添)

平成 29 年度研究成果に関する外部有識者への意見聴取 質問・意見等記入票

記入日：平成 30 年 月 日

所 属：_____

氏 名：_____

課題番号	
課題名	

1 以下の質問事項についてあてはまる評価の□にチェックを入れてください。

評 価 内 容	評 価		
	A	B	C
	可能性 は高い	普及支援 により活 用が可能	可能性 は低い
この研究成果は実用技術としての活用可能性は高いと思いますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

評価基準

A：山口県の生産・流通・加工等の生産現場で活用可能性が高い。

B：生産現場での確認等の普及支援を行うことにより現場で活用が可能

C：追試や確認試験が不可欠、現場で活用可能性が低い。

2 その他、この課題に対して御意見があれば記載してください。

--